

お元気ですか

◇1394◇

認知症は、単にもの忘れだけでなく、さまざまなお仕事を基に診断を下します。

七十八歳の良子さんが旦那さんと一緒に診察室に入ってこられました。良子さんは「めまいがひどくて何もできない」とこぼされました。よく聞くと「めまいがひどくて家事ができない、ふらつくので掃除ができない、洗濯もできない」と、困り顔でできないことばかりを並べられます。隣で「最近なんにもしよらへん」と旦那さん。お二人に加えて私も困り顔となりましたが、一番困っているのは良子さん本人であることは間違いなさそうです。

認知症 初期症状見逃さないで



す。

実は、外来の患者さんで最初に認知症を疑うとき、「もの忘れ」を訴えて受診されるご本人よりも、「今までできていたことができなくなった」「性格が変わった」などと、家族や周りの人が気付かれることの方が多いのです。めまいを訴えていた良子さんも、診察と検査の結果、初期のアルツハイマー型認知症と診断されました。認知症の進行を抑えるお薬などを処方し、ひきこもりがちな

ので介護保険を申請し、デイサービスも利用されるようになった。

二カ月後、私の外来に良子さんご夫妻が来られたとき、今も二人で落ち着いて暮らしておられる様子をつかがいました。このころには、めまいの症状はもちろん、不安な表情もなくなっていました。

初期の認知症を診断することは、決して簡単なことではありません。しかし、早い時期に適切な治療や療養につなげることができると、落ち着いた生活を続けることも可能です。

滋賀県では多くの医師が「認知症相談医」の認定を受けています。身近な方で「困ったな」と思い当たることがあれば、一度相談されてはいかがでしょうか。（東近江市、花戸貴司 滋賀県医師会）